

活用事例④

関西地区小学校

■活動した学年：1年

■主障害名：自閉症・知的障害

■各教科等名：自立活動

■本の名前：

わいわい文庫2012～2015のVer. 1

■対象となる子どもたちの実態

- ・自らの発語はほとんどなく、学習と生活の両面で細かい指示を必要とする。
- ・ひらがなやカタカナを指し示すと、読み書きすることができる。
- ・原学級で個別教材を使って学習している。

■学習のねらい

- ・自分でタイトルを選んで視聴する。
- ・数分間、一人で視聴ができる。

■使用した道具・機材

iPad、ヘッドホン

■実際の様子について

2017年9月よりマルチメディアDAISY 図書の使用を始めた。最初は、国語教科書の1学期の内容を試したが、興味が持続しなかった。

次に、「わいわい文庫」のなかから『ノンタン』などを教師が選んで見せた

ところ反応があり、またiPadの操作に意欲的なので、2012のVer. 1から順に読み進めることにした

iPadケースに入る大きさのリストを作成し、ヘッドホンもセットして常備した。学習課題に疲れてきたところに勧めると、喜んで聴くようになった。

最初は、下の4作品に限定して視聴した。

①あいうえおにぎり

②おおきなかぶ

③かわいいおやこ

④くださいな

『あいうえおにぎり』と『かわいいおやこ』の2択から始め、全部読むと4択に切り替えた。四角内の数字は、子どもの好みの順を示している。しかし、毎日視聴するうちに、順位は変化した。

ある日、特別支援教室へ行って果物のモデルを並べ、教師が「○○くださいな」と遊びに誘うと、バナナやみかんを「くださいな」と応じた。いつものオウム返しではなく、自分の好みの果物の名前だった。すると、その後の視聴では『くださいな』が1位になった。



次の4作では、『こぐまちゃんおはよう』が1位。「こぐまちゃんは何を食べたの?」「ころんだのは誰?」と問うと、「パン」「きりん」と即答した。こぐまちゃんシリーズは家庭に全巻揃っているそうだ。お母さんに読んでもらった記憶があるのか、大変嬉しそうな笑顔で視聴している。

その次の3作では『わにさんどきっはいしゃさんどきっ』がお気に入りだ。

最後の2作では、『やおやさん』から聴き始めたが、『やおやさんでおかいもの』のほうが視聴回数が増えた。

ここまで読み進むと11月下旬になっていた。その後のペースは速く、追加されたリストを見ながら、どんどん読み進んだ。



■成果と課題

- ・自分でリストを出し、しばらく考えてタイトルを選ぶようになった。
 - ・ヘッドホンの装着を含めiPadの操作手順を覚え、17分程度一人で「わいわい文庫」を視聴できるようになった。
 - ・学校で、2語文を言うようになった。
- 給食のお箸を振って落とすので、食事の直前に渡すことにしている。学級担任の先生と「お箸をください」「はい、どうぞ」「ありがとう」のやり取りができるようにしている。『やおやさんでおかいもの』で聞き覚えた言葉なので、大きな声ではっきりと言える。また、

お話の視聴後に、「りくちゃん、ぐつぐつぐつ」(『りくちゃんのイチゴジャム』) というように聞き覚えた言葉を繰り返すことがある。

それらの言葉を拾い集めると、本児の言語発達を促すためのヒントが得られるかもしれない。今後の課題である。

- ・本児が言葉を発し始めたのはさまざまな学習の相乗効果であろうが、毎日17分間×1～2回、作家が選び抜いた日本語のシャワーを浴びた効果は大

きいのではないだろうか。以前は学習に集中できなくなると、手をひらひら振る、ハンカチを噛むなどの常同行動をとっていたが、「わいわい文庫」の視聴を始めてからそんな時間が随分減った。

- ・文字だけの「作品一覧」から読みたいタイトルを選ぶことはできないので、iPadケースに収まる表紙絵入りのリストを作ったことが大変重宝した。

